

(平成 29 年 12 月試験研究業務月報)

実施課題名：地球温暖化に対応した京都府丹波黒大豆系品種の生産技術の構築

研 究

## 気候変動の影響を回避する丹波黒大豆生産技術の確立に向けて

近年、地球温暖化による気候変動が顕著となっており、夏季や秋季の過度な高温により、黒大豆の茎葉の生育から莢の成熟への切り換えが遅れる「青立ち」\*株が生産現場で多発するようになりました。この「青立ち」株は体内の水分が多く、子実の乾燥がスムーズに進まないため、しわ粒や裂皮粒が発生し、品質低下の原因となっています。

当センターでは、「青立ち」対策として、生育期が夏季の高温の時期に当たらないよう播種期をずらす方法や、後期中耕、摘葉などの効果の解明に取り組んでおり、日本気象協会や京都大学と連携して、早急な対策技術の確立を目指しています。

※ 青立ち：成熟期を迎えても茎葉が枯れ上がらず、いつまでも緑色のままである状態。



黒大豆の被害粒

(左は正常粒、中はしわ粒、右は裂皮粒)